



『人は機械に負けない。“愛”というテクノロジーがあるから。』

PIPED BITS

株式会社パイプドビット
東京都港区元赤坂一丁目1番7号
<http://www.pi-pe.co.jp/>



佐谷宣昭 Nobuaki Satani

1972年生まれ。
九州大学工学部建築学科卒業。
2000年九州大学大学院人間環境学専攻博士課程修了、博士（人間環境学）。
翌月起業。㈱パイプドビット社長CEO。明日の豊かな情報生活に貢献したいとの想いから、「情報資産の銀行」の必要性を説く。官公庁や都市銀行、小売業など1900余りの事業者へ情報資産プラットフォーム「スパイラル(R)」を提供中。

政治山

※「政治山」とは、パイプドビットが提供を開始する、日々の政治情報全般を取り扱うプラットフォームです。

内部告発サイト「ウイキリークス」の創始者であるジュリアン・アサンジ氏が、2011年のノーベル平和賞候補として推薦されたそうだが、先日のこの新聞報道を目にしたながら、5、6年前のことを思い起こしていた。

上場企業に相応しい会社にせねばと準備していた頃、監査法人、証券会社、証券取引所などの先生方が、社会人経験4年の若輩経営者にコーポレート・ガバナンスの何たるかを説く。企業は公器である。法令遵守は言うに及ばず、投資判断に影響を与える情報は速やかに開示し、利益相反取引は厳に慎み、経営者は常に誠実でなければならぬのだと。

とはいえ、経営者も人の子だ。いつも聖人君子というわけにはいかない。だから企業には、自ら内部通報制度をつくり、内部の不正を抑止しながら、不正を働いた経営者をクビにする自浄作用の仕組みが求められる。企業と国家、規模は異なれど、同じ人間社会。統治の仕組みに大きな違いはなからう。

米国は、1966年に情報公開法、1989年に内部告発者保護法を制定した。

日本は、1999年に情報公開法、2003年に個人情報保護法、2004年に公益通報者保護法を制定している。

インターネットが普及して、ウイキリークスは世界の内部通報窓口になった。我々は、公益の名の下に、グローバル・ガバナンスの構築を催促している。

公益とは何か。

生まれも容姿も価値観も違う人間が、様々に集い暮らす人間社会。常に不条理がつきまとう。通報する人間にも通報される人間にも言い分がある。1通のメールは迷惑メールにも嬉しいメールにもなる。

不条理が不正の温床となる度に、我々はいつものルールづくりを催促する。公益のためにと。

私益と公益。表裏一体。

うまくバランスするためには、本音と建前があった。藪(ケ)と晴れ(ハレ)があった。

インターネットが普及して、裏と表が同居した。不条理が吹き出し始めた。バタバタと制定される情報法制。法律は時代を映す。

選挙の季節。統一地方選挙が近づいてきた。我々は誰を選び、どんな法律をつくらうとしているのか。今ある法律は、如何なる時代背景の下に、如何なる議論を経てつくられたのか。

変革はいつも功と罪を生む。

インターネットが普及して、我々は記録しなければならぬ。その法律が如何なる公益のためにつくられたのかを。

子孫に伝えよう。政治の物語を。法律によって私益を得、法律によって私益を失った人間の物語を。